

肝臓病

肝臓は体の中でもっとも大きく、再生する機能があるため病気に気づきにくく、「沈黙の臓器」とも呼ばれ、おくことが、健康寿命を延ばすことにつながります。

1

特定健診ではこの項目をチェック

肝臓病に関しては、下の3つの項目に注目してください。正常の範囲内であっても、数値が徐々に高くなっていないか、昨年の検査結果と比べてみましょう。

定期健診の判定値

● AST (GOT)

保健指導判定値 **31U/L 以上**

受診勧奨判定値 **51U/L 以上**

肝臓の細胞が破壊されると数値が高くなります。

● ALT (GPT)

保健指導判定値 **31U/L 以上**

受診勧奨判定値 **51U/L 以上**

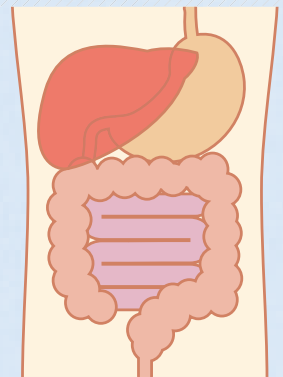
肝臓の細胞が破壊されると数値が高くなります。

● γ -GT (γ -GTP)

保健指導判定値 **51U/L 以上**

受診勧奨判定値 **101U/L 以上**

肝臓や胆道に異常があり、胆汁の流れが悪くなると数値が高くなります。アルコール性肝障害では、数値が高くなります。



2

ウイルスによる肝炎とアルコールによる肝炎などがあります

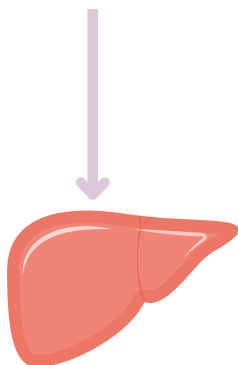
肝臓の病気でもっとも多いのが、肝炎ウイルスに感染して起こる「ウイルス性肝炎」です。このほかに、長期間多量のアルコールをとり続けることで起こる「アルコール性肝炎」、食べすぎなどによる「非アルコール性脂肪肝炎」、薬物や化学物質による「薬物性肝炎」、「自己免疫性肝炎」などがあります。

肝炎ウイルスに感染すると、多くの人は肝臓に炎症が

起こり「急性肝炎」になります。約6カ月以上肝臓の炎症が続いた状態が「慢性肝炎」です。これを放置していると、肝細胞が線維化して肝臓が硬くなる「肝硬変」になり、さらに「肝臓がん」に進行してしまふこともあります。肝機能の異常を見つけたら放置せず、詳しい検査を受けましょう。

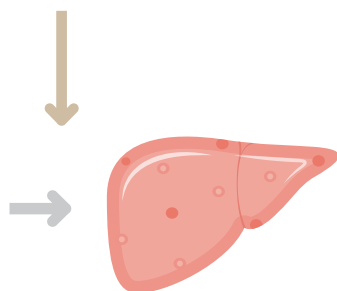
症状の進行のしかた

● ウイルス性肝炎



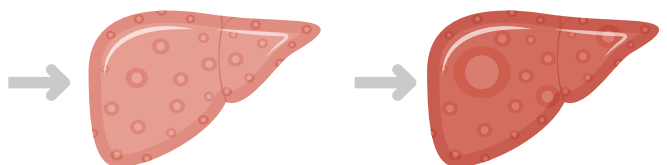
①急性肝炎

● アルコール性肝炎 ● 非アルコール性脂肪肝炎 など



②慢性肝炎

肝炎の主な原因



③肝硬変

④肝臓がん